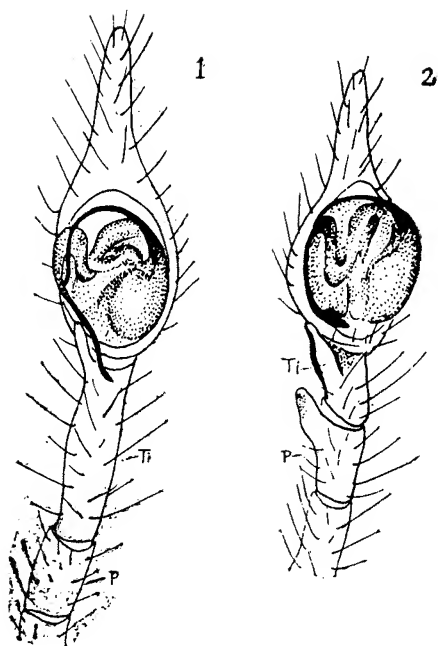


- 臺中州北山坑 12. 6. 3 ♀ 多數
2. *Tetragnatha japonica* B. et S., 1906 ヤサガタアシナガグモ
臺中州北山坑 12. 5. 30 ♂ ♀ 多數
3. *Tetragnatha gracilis* Stoliczka, 1869 ?
臺中州北山坑 12. 5. 30 ♀ 2 (幼)
4. *Araneus dehaanii* Doleschall, 1859 ミツカドオニグモ
臺中州北山坑 12. 6. 3 ♀ 1
5. *Araneus scylloides* B. et S., 1906 サツマノミダマシ
臺中州北山坑 12. 6. 3 ♀ 1 (非常に大形)
6. *Argiope keyserlingi* Karsch, 1878 ムシバミコガネ
臺中州北山坑 12. 6. 1 ♀ 4
7. *Nephila maculata* (Fabricius, 1793) マダラチヨラウグモ
臺中州乾溪 12. 5. 25 ♀ 多數 (幼)
高雄州恒春 15. 8. 一. ♀ 4 (成)
8. *Suzumia orientalis* Kishida スズミグモ
臺中州北山坑 12. 5. 30 ♀ 多數 (幼)
9. *Gasteracantha kuhlii* L. Koch, 1833 トゲグモ
臺中州北山坑 12. 6. 3 ♀ 2
10. *Argyrodes miniaceus* (Doleschall, 1857) アカキサフラフグモ
高雄州恒春 15. 8. 一. (マダラチヨラウグモの網に寄生) ♀ 2
11. *Dolomedes higenaga* Kishida, 1912 ヒゲナガハシリグモ
臺中州北山坑 12. 5. 30 ♂ ♀ 多數
-

愛媛縣産ナミハグモの一新種

八 木 沼 健 夫

昭和15年11月23日に三好保徳氏に依り愛媛縣宇和島市滑床の松林にて採集された蜘蛛の送附を受けたが、その中に極めて小形の成熟せるナミハグモ3頭あ



第 3 圖

1. *Bansaia nipponica* の雄の觸肢
 2. *Cybaeus McLottéi* の雄の觸肢
- P…膝節 Ti…脛節 (長さの關係に注意)

り、從來發表せられたる *Cybaeus* 屬の何れのものに比しても非常に小さく形態的にも之に該当する種なく、爾來本種に關して調査研究を續けて來た所、今回之が新種なる事を認めこゝに記載する事にした。和名は形の小さき事を意味し、學名は三好氏に捧げたものである。

Cybaeus miyosii sp. nov.

ヒメナミハグモ (新稱)

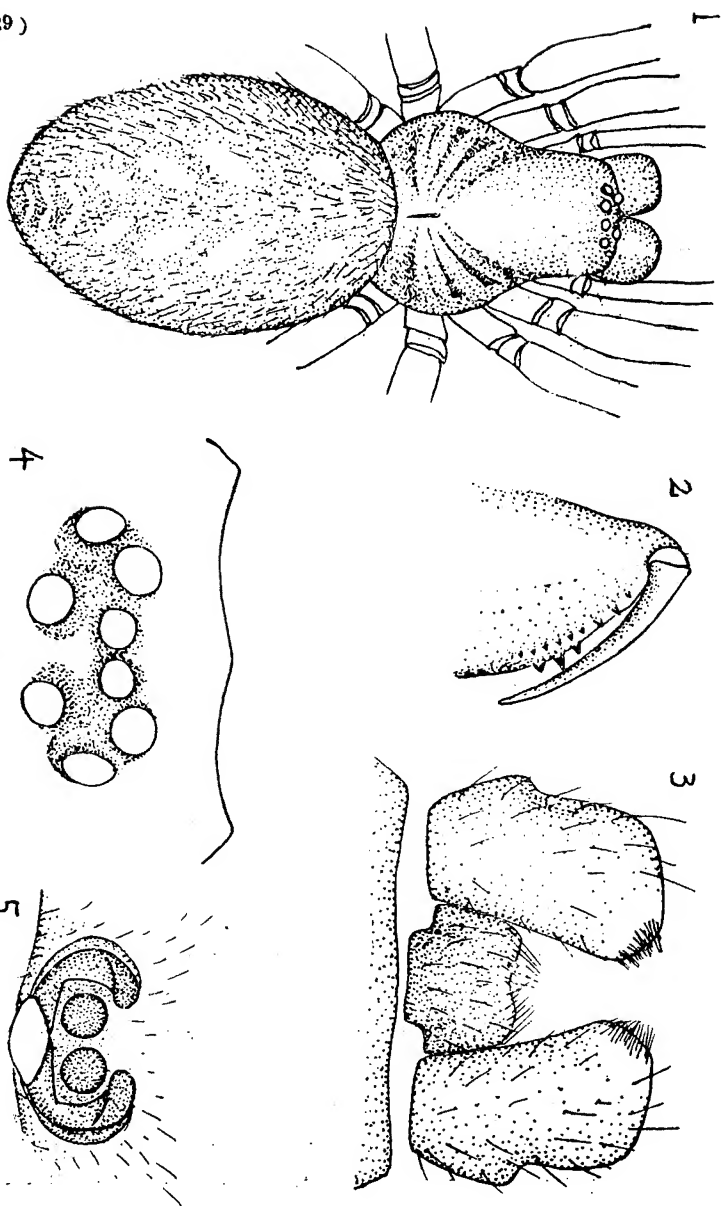
模式標本 上記3頭は何れも成雌で、その中の1を holotype とし他の2頭を paratype とする。holotype は筆者の標本 No. 325, paratype の1は No. 326 として保管し、他は三好氏に保管願ふ事とする。

測定 (♀ holotype) 單位 mm

全 長	第 1 脚	第 2 脚	第 3 脚	第 4 脚
3. 7	4. 3	4. 0	3. 4	4. 5

色彩 (♀ holotype) 背甲は一樣に黄褐色、放射溝に沿つて2對の淡黒い斑紋があり、胸部の後方は同様淡黒色の斑紋があるが不明瞭である。上顎・下顎及び下唇は濃い黄褐色で、下顎の内前方及び下唇の前方は白色を呈し黒色の毛を密生してゐる。胸板は黄褐色で黒毛を散布し、歩脚は輪紋を缺き黄褐色なるも先端に到るに従ひ褐色を増す。腹部背面は灰白色の地に白色の斑紋を有するも地色淡き爲斑紋は判然としない。(paratype の1に地色の濃きものあり) 白斑は前方に小さきもの1對、後方に稍々大きいもの3對あり、更に後方に形の不明瞭な斑紋が數對ある。下面も背面と殆ど同色であるが色淡し。性域は赤褐色を呈する。

形態 (♀ holotype) 背甲は長さ幅に優り第3・第4歩脚間に於て最廣。頭部は後方に高く、中窩は縦向きで、頸溝及び放射溝を有する。眼は2列に並び前列は前曲(∪)後列は殆ど直線上に位置する。前側眼最も大きく、前中眼は最も小さい。前列眼は互に接近してゐるが直眼間の距離は直眼・第1間眼間の距離よりも小さい。第3間眼間の距離は第3・第2の間より僅かに廣い。第1・第3の距離は第3間眼間の距離よりも大である。眼はすべて黒色の地の上にあり、中眼域は下底>上底の梯形で長さ>幅である。額は廣い。上顎の前牙堤には3本の大きな齒を有し中央のものが最大、後牙堤にはやはり3本の大きな齒と之



1. 全形背面 2. 右側上顎 3. 下顎及下唇部 4. 眼 (前上方より見る) 5. 性域

に續く數本の小齒がある。下顎は略々平行で 長さは顎の 2 倍より小さく、内側は前方で稍々接近し、先端は斜に切截されてゐる。前方最も幅廣く中央で狭くなり再び外側に突出て基部に細く終る。下唇は幅、長さに優り横に長い梯形で下顎の半分にも達せず。下唇の前方は少し凹む。胸板は長さ幅略々等しく、前端は切截狀で、後端は尖る。第 2 脚間最も廣し。歩脚は第 4 脚最長で、第 1・第 2・第 3 之に次ぐ。脚端には 3 本の爪を有し上爪には齒を列生する。各脚の脛・趾節に剛毛を有し、第 1・第 2 の脛・趾には各々 2・2・2、第 3・第 4 は少し不規則に配列する。蛛疣は前疣接近し後疣は前疣よりも短く 1 節である。間疣は痕跡的なもので認め難い。

備考 本種は *Cybaeus Mellottéi* (Simon) に似てゐるが歩脚に輪紋なく、下顎の幅の廣い點により區別し得る。又體色及び歩脚に輪紋なき點により *Cybaeus tetricus* (C. L. Koch) に似るも眼の配列及び上顎の牙堤齒の數を異にし容易に識別し得る。更に成體の小形なる事と epigynum の形に依り *Cybaeus* 屬の他の何れのものとも明かに區別する事が出来る。

カバキコマチグモの寄生蜂 イワタツツベツカフバチに就いて

關 口 晃 一

1. ま へ が き

筆者が昨夏 (1940) 輕井澤千ヶ瀧の淺間高原生物研究所に滞在中採集した蜘蛛類多足類に就いては既に報告したところであるが、その際觀察されたカバキコマチグモ *Chiracanthium japonicum* Bösenberg et Strand の寄生蜂に就いてはその後各方面の御援助により漸く明かにする事を得たので、以下之に關して筆者の觀察及び調査に依り知り得たことを簡單に記して置きたいと思ふ。種々御面倒をお掛けした高島春雄氏、植村利夫氏及び文獻の惠與又は貸與その他に格別なる便宜を忝とした岩田久二雄、安松京三、荒木等の諸氏に厚く御禮申上げ度い。猶本觀察は岡崎常太郎氏の御厚意に依つて上記研究所に滞在中な